

議題1 下水道事業経営戦略について

※12月の審議会で配布した経営戦略(案)から変更・修正した点

- ・使用数値を令和4年度から令和5年度へ
ただし、他事業体比較については、総務省公表が令和4年度のため、そのデータにて比較
- ・計画期間（R6～R15→R7～R16へ）
- ・将来の事業環境グラフ
- ・投資・財政計画 1) 収益的収支 2) 経費回収率グラフ
- ・財政健全化に向けた取組
- ・経営戦略ロードマップ中 2) 業務指標、経費回収率の維持、下水道使用料について

変更に至った経緯としては、12月の審議会終了後、総務部（企画、財政）へ意見を伺うため、経営戦略(案)を提示したところ、経営戦略中の文章（繰入金部分）や投資・財政計画について意見等がありました。

投資・財政計画シミュレーションについては、現状とかけ離れているのではないかとの指摘があり、再度精査した結果、税理士法人の作成したシミュレーションは、R2～R4の決算数値を元に算出しており、一般会計補助金（繰入金）について平均数値を使用していた結果、乖離が生じていました。

一般会計補助金（繰入金）については、前年と同程度を収入と見ていた結果、現金預金に余裕がありましたが、R6以降、資本費平準化債を借り入れるため、その分補助金繰入額を減額しています。

（基準外繰入分は基本的に赤字補填部分をもらうこととしています。）

その点を考慮しなかったため、投資・財政計画シミュレーションが大幅に変わり、令和8年度に流動資産（現金預金）がマイナス、令和9年度に純利益がマイナスとなる結果になります。

一般会計も財政が危機的状況のため、赤字補填部分をもらうにしてもいままでと同じように繰入はできないとの話があり、使用料の改定率も決まっていなかったため、値上げ分を考慮した投資・財政計画シミュレーションも作成できず、現状分析の投資・財政計画を提示することとしました。

本来、投資・財政計画は黒字の計画になるよう作成するものですが、令和7年度に改定率、財政課との繰入金について協議し、決定次第投資・財政計画の修正したものを再度公表することとしました。

議題2 投資・財政計画について

1 2月に提示したシミュレーションと今回のシミュレーションを比較しますと、赤字に転じる大きな要因は一般会計補助金（繰入金）です。経営戦略でも少しふれましたが、大きく変更しています。財政課へシミュレーションを提示したところ、繰入金（基準外繰入分）について、ここまで補助できないため、R6, R7 ベースで見るよう指摘がありました。

12月配布資料（1）では、R6以降基準外繰入は1億以上あるのですが、今回配布資料（2）では、2500万～3200万弱（実額・予算ベース）、将来も赤字補填分は同等額で試算した結果です。差が1億近くあるため、現金預金も減額となります。

今後の使用料改定率にもつながるのですが、この差分を使用料で賄わなければならなくなり、平均の年間使用料は2億2千万くらいなので、1億近く増収するには、単純に50%位値上げをしなければ賄えないことになります。

財政課とも繰入金（基準外）をどこまで補助できるのか、協議が必要になります。単年の現金預金をいくら確保するか、繰入金等逆算し、使用料をいくらにするかということになってくると思います。

議題3 パブリックコメント実施結果

2/13 から 3/14 までの 30 日間行った結果、2人から4つの質問がありました。

詳細と回答については別紙のとおりです。

ホームページには3/24に結果と回答を掲載しております。

議題4 今後の使用料改定について

別紙 工程表を参照

*次回審議会は令和7年月下旬を予定しております。